

平成20(2008)年度事業報告

当財団は、平成20年9月に40周年を迎えたことから、一部を記念事業と位置づけた。

[研究開発活動]

1. 生産現場で働く人の能力開発に関する実践研究(継続)

昨年からの継続として、製糖工場の製造技術継承を目的とした教育の指導に当たった。

基礎段階の学習として、「フィードバック制御について学ぶ」学習コースおよび教材を新たに開発し、指導者のための研修を実施した。

次段階の、「現場装置を教材にして製造システムを学ぶ」学習コースおよび教材作成のための調査を実施した。

本テーマについてこれまで数年間の研究・実践を集大成して、「質の高いオペレータを短期間に育てる」というニーズに応える学習コースおよび教材設計の方法提案のための準備を整えた。

(この研究は、企業に対するコンサルティング活動の一環として行った。)

2. 自動車運転指導員の指導力向上に関する研究(新規)

自動車運転指導の場で、指導法改善プロジェクトの実施が指導員の研修にどういう意味を持つかを研究し、その効果が非常に大きいことが明らかになった。

詳細は、研究紀要78号「指導法改善プロジェクトの取り組みとその意味 - 自動車教習指導員の指導力向上の研究 - 」に報告した。

(この研究は、企業に対するコンサルティング活動と関連させて行った。)

3. 教師の指導力育成方法の研究(継続)

探究活動の指導に必要な基礎的能力(学習状況の読取力,対話能力等)を育てる教材および研修プログラムを開発し、効果測定を行った。その結果、予想以上の効果を確認すると共に教材についての改善点も明確になった。

詳細は、研究紀要77号「科学分野における探究活動指導力育成の方法の研究」に報告した。

(この研究は、(財)新技術振興渡辺記念会の助成によって行った。)

4. 矢口新の教育思想と実践活動の研究(新規、40周年記念事業)

本研究は、戦後の教育創造期にあって、地域の生活および産業構造の実態調査に基づいたカリキュラム構成を実践的に研究、その後の教育界をリードした矢口新の実績を明らかにするものであるが、本年は、そうした実践を通じて教師の力量形成がどのように行われたかについて調査を行った。

調査は、茨城県常総市立(当時水海道市)水海道小学校で、昭和20年代後半から40年代にかけて教員として実践した教師へのインタビューの形で行ったが、教員の能力は研究的実践を通じて根強いものとして形成される様子が明らかになった。

[能力開発に関するコンサルテーションおよび研修活動]

1. 株式会社コヤマドライビングスクールに対して

- (1) 昨年同様、運転行動分析研修(3日間)2回、教習行動分析研修(3日間)4回、新人研修(3ヶ月間)などの指導に当たった。
- (2) 指導法の改善をめざす「新指導法開発プロジェクト」に関連して、プロジェクトの推進とプロジェクトメンバーの指導を行った。
- (3) 関連会社が実施する啓発セミナー(3日間)3回の実施およびインストラクション・レコーダーの普及に対する支援を行った。

2. 第一糖業株式会社に対して

昨年に続いて、現場の製造オペレータの製造技術継承のための教育を指導した。本年は、フィードバック制御の基礎段階の学習コースについて下記の指導と研修を行った。

- (1) 現場作業の分析および学習システム開発の指導
- (2) 指導者に対する研修の実施

3. 富山県科学探究クラブに対して

富山市東部児童文化センターにて実施されている電気およびコンピュータの学習(小中学生対象)に対して、これまで同様、教材整備等の協力を行った。

[普及広報活動]

1. 学習教材の頒布

- (1) 電気シーケンス教材 2セット
- (2) インストラクション・レコーダー 3セット

2. 刊行物及び紹介資料の作成・頒布

- (1) 広報紙「JADEC ニュース」75、76、77号を刊行、Webサイトに掲載した。
- (2) 研究紀要77号、78号を刊行した。

77号「科学分野における探究活動指導力育成の方法の研究」

78号「指導法改善プロジェクトの取り組みとその意味 - 自動車教習指導員の指導力向上の研究 - 」

- (3) 矢口新選集(全7巻) 2セットを頒布した。

3. 公開展示

(財)機械振興協会技術研究所のオープンハウス(11月20日)に伴い、創立以来40年間に実践したこと及び現在行っている活動についての公開展示を行った。

4. Webサイト「JADEC資料館」を増設（40周年記念事業）

設立40周年の節目に当たり、Webサイト「JADEC資料館」を増設することにした。40年間に行ってきた研究・開発・実践には、これからの教育に役立つ思想および具体的な姿があると考え、そのすべてを整理して、公開する。

本年は、下記8項目からなる基本的な枠組みを構築した。

開発した学習システム	研究活動の記録
人材育成活動の記録	教育支援活動の記録
国際教育協力の記録	研究集会の記録
映像資料	研究紀要・論文

[賛助会活動]

1. 賛助会の状況

(1) 平成19年(2007)年度末現在	12社 38口
(2) 平成20年(2008)年度末現在	12社 38口

2. 能力開発研究会の状況

(1) 平成19年(2007)年度末現在	1機関 2口
(2) 平成20年(2008)年度末現在	0機関 0口

以上